

事務所通信

平成31年春号

こんにちは、立川です。
いつもありがとうございます。

平成時代から令和時代へと、時代が移り変わろうとしていますね。
当事務所の創業が平成3年11月ですので、まさに平成時代を駆け抜けた感じがしています。

先月、イチロー選手が現役引退を発表しましたね。
インタビューの中で、会社を経営するにあたって、すごくためになる言葉があると感じました。

今回は、その一部をヤフーニュース Full-Count より引用いたします。

一 決断に後悔や思い残したようなことは？

「今日のあの球場での出来事を見せられたら後悔などあろうはずがありません。・・・結果を残すために自分なりに重ねてきたこと・・・自分なりに頑張ってきたということは、はっきり言えるので、これを重ねてきて、重ねることでしか後悔を生まないということはできないのではないかと思います」

地道な努力を重ねて、それを継続していくということは、本当に大変なことであると思います。しかし、そうしないと結果は残せないと改めて感じました。

一 子供たちにぜひメッセージを

「自分が熱中できるもの、夢中になれるものを見つけられれば、それに向かってエネルギーを注げるので、そういうものを早く見つけてほしいなと思います。それが見つかれば、自分の前に立ちほだかる壁に向かっていける、向かうことができると思うんですね。それが見つけられないと壁が出てくると諦めてしまうということがあると思うので、いろいろなことにトライして、自分に向くか向かないかというより自分が好きなものを見つけたいなと思います」

— ずっと応援してくれたファンの存在は？

「・・・ある時までは自分のためにプレーすることがチームのためにもなるし、見てくれている人も喜んでくれるかなと思っていたんですけど、ニューヨークに行った後くらいからですかね、人に喜んでもらえることが一番の喜びに変わってきたんですね。その点でファンの存在なくしては自分のエネルギーは全く生まれないと書いてもいいと思います」

企業経営者にとっては、「ファン」を、「お客様」あるいは「自社の切磋琢磨できるメンバー」と考えれば、よりわかりやすいと考えます。

— イチロー選手が貫いたもの、貫けたものは？

「野球のことを愛したことだと思います。これが変わることはなかったですね。」

— 肩の力を抜いたときに違う野球が見えて楽しくなる、という瞬間はあったのか？

「ないですね。・・・1994年、3年目ですね。・・・この年までですね、楽しかったのは。あとは、その頃から急に番付を上げられちゃって、一気に。それはしんどかったです。やっぱり力以上の評価をされるというのは、とても苦しいですよ。だからそこから純粋に楽しいなんて言うのは、もちろんやりがいがあって、達成感を味わうこと、満足感を味わうことはたくさんありました。ただ、楽しいかっていうと、それはまた違うんですよ」

心からやりがいを感じることができて、達成感、満足感を味わうことができた、ということ素晴らしいことですね。

— 常々、最低50歳まで現役ということを書いてきたが、日本に戻ってもう一度プロ野球でプレーするという選択肢はなかったのか？

「・・・最低50までって本当に思ってたし、でもそれは叶わずで。有言不実行の男になってしまったわけですけど、でもその表現をしてこなかったら、ここまでできなかったかなという思いもあります。だから、言葉にすること。難しいかもしれないけど、言葉にして表現することというのは、目標に近づく一つの方法ではないかなと思っています」

- イチロー選手の生き様でファンの方に伝わっていたらうれしいということはありませんか

「生き様というのは僕にはよくわかりませんが、生き方と考えれば・・・あくまでも測りは自分の中にある。それで自分なりにその測りを使いながら、自分の限界を見ながらちょっと超えていくことを繰り返していく。そうすると、いつの間にかこんな自分になっているんだ、という状態になって。だから少しずつの積み重ねが、それでしか自分を超えていけないと思うんですよね。一気に高みに行こうとすると、今の自分の状態とギャップがありすぎて、それは続けられないと僕は考えているので、地道に進むしかない。進むというか、進むだけではないですね。後退もしながら、ある時は後退しかないう時期もあると思うので。でも、自分がやると決めたことを信じてやっていく。

でも、それが正解とは限らないわけですよ。間違っただけを続けてしまっていることもあるんですけど。でも、そうやって遠回りをするだけでしか本当の自分に出会えないというか、そんな気がしているので」

私は、「測りは自分の中にある」という点と、「少しずつの積み重ねでしか、自分自身を超えていけない」という点がとても印象に残っています。

- 子供のころからの夢であるプロ野球選手になるという夢を叶えて、今何を得たと思いますか

「成功かどうかってよくわかりませんが、じゃあどこから成功で、そうじゃないのかって、まったく僕には判断できない。・・・

メジャーリーグに挑戦するという事は、大変な勇気だと思うんですけど、でも成功、ここではあえて成功と表現しますが、成功すると思うからやってみよう。それができないと思うから行かないという判断基準では、後悔を生むだろうなと思います。できると思うから挑戦するのではなく、やりたいと思えば挑戦すればいい。その時にどんな結果が出ようとも後悔はないと思うんです。じゃあ自分なりの成功を勝ち取った時に、達成感があるのかと聞いたら、それも僕には疑問なので。基本的にはやりたいと思ったことに向かっていきたいです」

事業を創業し、経営するにあたっては、他人との比較ではなく自分自身の成長を追求していくことが、充足感を味わう秘訣であると感じました。

令和時代も引き続き、お客様企業の発展のため、メンバー一同全力を尽くしていきます。

(代 表 立 川 勝 一)